



有限会社まるみ麴本店



本社：岡山県総社市美袋1825-3

業種：製造業

従業員数：21名（令和2年12月1日現在）

設立：1950年

資本金：300万円

URL：<https://marumikouji.jp/>

経営理念：私たちは人と自然の恩恵に感謝し、健康につながる食づくりを通して、世のため人のために尽くします

BCP策定に取り組まれたきっかけ

平成30年西日本豪雨災害の経験

所属している岡山県中小企業家同友会で、既にBCPに取り組んでいる方々の様々な話や情報は聞いていた。**単に災害に対する備えというより、災害に関わらず、社業に関係するトラブルが起こったりといった予期せぬ事態が生じる中で、目指すべき経営指針に対する対応策を講じておくことが重要だと認識していた。**

- ・高梁川の堤防の内側に水が貯まる「内水」と呼ばれる現象で浸水。工場1階の貯蔵室や製麴室なども浸水し、翌日には水が引いたものの、設置していた充填機械等が故障し使用できなくなった。
- ・社長は当初、お客様への商品発送を3日後には復旧と考えていたが、現実には想像以上に難しく、約2週間を目途に事業再開に取り組むことになった。
- ・使用できなくなってしまった充填機械と同じ機械を導入している同業者と日頃から関係構築していたので、作業場所と機械を貸してもらい出荷作業は早期に復旧できた。事前にBCPにおける企業同士の助け合い・連携について知っていたので、思い切って当方より声をかけ、助けていただいた。もしBCPを知らなかったら、機械を貸して欲しいとの声をかけることもなく、生産を再開することもできず、復旧に相当な時間がかかったと思う。
- ・周りの方々や地域の見えない絆に本当に助けてもらい、事業継続できたので、とても感謝している。
- ・災害を受けて、2020年10月に製麴室を工場2階へ新設。マイナスイオン発生装置や麴箱等を一新して、さらに良い麴づくりができる環境を整えた。



炭蔵の味噌樽



新しくなった工場2階の製麴室

感染症BCPについての取り組み

BCPの特徴・こだわりポイント

- ・業種的に日頃からマスク着用など衛生管理には取り組んでいるので、今後もさらに基本動作を徹底していきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症については、健康を損ねることよりも風評被害による経営ダメージについて考えておく必要があると感じている。

- ・BCPは防災対策ではなく、「経営理念」や「長期ビジョン」を実現させるために、どのように企業継続していくかを考えておくものである。
- ・10年後にどうありたいか、目指すべきところや存在意義が明確になっていないと、有事の際の立ち上がり方も変わってくると思う。
- ・普段から力を蓄え、新しいことを取り入れる意識が大切。まずは**自社の商品価値を高め、独自性で他社への流出を食い止めることが大事。**
- ・「多能工化」もその一つで、『もし社長がいなくなったら…』『あの部署の業務が停止したら…』という観点で作業領域を広げたり、形を変えながらも生き残っていくための準備に従業員みんなで行っている。
- ・西日本豪雨災害で被災した際には、周囲の支援もあり比較的早く復旧できたが、1ヶ月～6ヶ月間といった長期間にわたり事業が停止するリスクも考え、信頼できる会社への仲介依頼や、別ブランドの立ち上げ、OEM等あらゆる形での事業継続を考えている。
- ・被災という経験をしたが、『もうこれだけの大災害が起きることはないだろう』『起きたとしても乗り越えられたから何とかかなるだろう』という気持ちを押し殺して、まだ経験していない予期せぬ事態が起きるかもしれないという気持ちで勉強していきたい。